

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

国際石油開発帝石、石油資源開発、出光興産、J X T G ホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

日本瓦斯（新規）、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、沖縄電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯、静岡ガス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	13
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	17
計		17	100

（注）評価項目の内容および配点は 79 頁参照

（2） 評価実施アナリストは 17 名（所属先 14 社）である。（80 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（76～78 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**ほか 2 分野において、項目の削除、内容変更、配点変更または内容・配点変更を行った。また、評価対象企業の変更（新規を含む）もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.3 点（昨年度 69.8 点）、総合評価点の標準偏差は 5.0 点（昨年度 4.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 72.7 点（昨年度 70.8 点）、電力・ガス部門（16 社）が 69.6 点（昨年度 69.5 点）となった。さらに業態を細分化し評価点の高い順で見ると、石油 75.2 点（昨年度 72.6 点）、ガス 73.3 点（昨年度 72.7 点）、鉱業 69.0 点（昨年度 67.2 点）、電力 67.9 点（昨年度 68.3 点）となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 73%（昨年度 71%）、**説明会等**が 71%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が 77%（昨年度 79%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 65%（昨年度 62%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 67%）となり、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**が他の分野に比べ下回っている。

④ 評価項目について見ると、全 17 項目中、次の 2 項目は平均得点率で 80%以上となり、高水準となった。

- (a) 「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」(平均得点率 85%) (得点率(評価点/配点(以下省略)): 90%2 社・80%台 17 社)
- (b) 「開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していますか」(平均得点率 82%) (得点率: 90%5 社・85%5 社・80%6 社)

⑤ 一方、次の項目は、平均得点率が昨年度より低下し、50%台となり、低水準となった。

- ・ 「国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がなされていますか」(平均得点率 55%〔昨年度 67%〕) (得点率: 45%1 社・50%台 14 社)

⑥ なお、多数の企業に対して、月次データの公表を望む声や、キャッシュアロケーションの方針が分かりにくい、特に投資を積極化させる一方で、株主還元は国際的にみれば低水準であり、充実した説明を要望する声が寄せられた。

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 J X T Gホールディングス(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.9 点〔昨年度比+2.8 点〕、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 86%)、説明会等(81%)が第 1 位、自主的情報開示が第 3 位(73%)、コーポレート・ガバナンス関連が第 4 位(75%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 11 位(77%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇(上昇幅第 4 位)につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年 2 回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていること」が最も高い評価となった。また、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR 担当者等と有益なディスカッションができること」が評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルール of 趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報(会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業を含む)の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていること」が共に最も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ③ 説明会等においては、「決算発表と同日にウェブサイトで決算の理解に有益な資料を開示していること、また、収益および財務分析に必要な情報(製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等)が、投資家の関心に即して十分に記載されていること、さらに、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていること」が最も高い評価となった。加えて、説明資料に「定量情報として、製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資計画、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等、定性情報として、政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすくかつ十分に記載されていること」も最も高い評価となった。さらに、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」も最も高い評価となったほか、「説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していること」も高い評価となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトで有用な情報(決算説明会・カンファレンスの資料等)が遅滞なく行われていること」が評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価された。また、「中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」も評価された。なお、政策保有株式の保有意義等について、より説明を求めるとの声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が評価された。これに関し、定量データの時系列一覧や社外取締役のコメントを評価する声、CSR 報告書を評価する声が寄せられた。また、「国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がされていること」も評価された。さらに、「開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」も評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

同得点第 2 位 中部電力（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 78.2 点〔昨年度比+6.8 点、一昨年度比+14.8 点（注）〕、昨年度第 6 位〔一昨年度第 8 位（注）〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャー（81%）、コーポレート・ガバナンス関連（77%）が同得点第 2 位、説明会等が第 3 位（78%）、自主的情報開示が第 6 位（70%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第 1 位）につながった。なお、一昨年度から本年度までの 2 年間（通算）で、総合評価点は 14.8 点上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会に社長または会長が年 2 回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができること、経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていること」が評価された。また、「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR 担当者等と有益なディスカッションができること、あるいは、IR 部門以外へのインタビュー等が容易であること」が最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報（会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業を含む）の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていること」が共に評価された。これらに関し、社長との率直な意見交換ができる点、数字の開示や補足説明が充実している点、IR 部門とのコミュニケーションにおいて、評価できるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算発表と同日にウェブサイトで決算の理解に有益な資料を開示していること、また、収益および財務分析に必要な情報（製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資等）が、投資家の関心に即して十分に記載されていること、さらに、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていること」が評価された。加えて、説明資料に「定量情報として、製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資計画、定性情報として、政策動向および対応、事業戦略等が分かりやすくかつ十分に記載されていること」も評価された。さらに、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」および「説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していること」が共に評価された。なお、説明会資料の参考部分の記載が充実しているとの声がある一方、会社計画のセグメント内訳の開示を望む声や増減益が定量的に分かる資料を要望する声も寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」が評価された。また、「ウェブサイトで有用な情報（決算説明会・カンファレンスの資料等）が遅滞なく行われていること」も評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価された。また、「配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値が示されていること、目標数値がない場合でも、客観的かつ合理的に説明されていること」も評価された。さらに、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」も評価された。これらに関し、利益成長とともに配当性向目標を設定した点を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が評価された。
- ⑦ なお、同社と東京電力グループの合併会社（JERA 社）についての記載のさらなる充実を要望する声が寄せられた。

(注) 一昨年度の数字は、「電力・ガス」業種としての総合評価点、総合順位。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

同得点第2位 東京瓦斯（総合評価点 78.2 点〔昨年度比+0.1 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連（82%）、自主的情報開示（76%）が第1位、説明会等が第2位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（81%）、経営陣のIR姿勢等が第6位（77%）となった。
- ② 説明会等においては、「決算発表と同日にウェブサイトで決算の理解に有益な資料を開示していること、また、収益および財務分析に必要な情報（製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等）が、投資家の関心に即して十分に記載されていること、さらに、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていること」が評価された。加えて、説明資料に「定量情報として、製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資計画、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等が分かりやすくかつ十分に記載されていること」も評価された。さらに、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」および「説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していること」が共に評価された。なお、増加している成長投資が、今後どの程度利益成長に寄与するのか、定量的な説明が望まれるとの声が寄せられた。
- ③ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」が評価された。また、「ウェブサイトで有用な情報（決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が遅滞なく行われていること」も評価された。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価された。また、「配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値が示されていること」が最も高い評価となった。さらに、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」も最も高い評価となった。これらに関し、定量目標が明確かつ高い還元水準である点を評価するとの声がある一方で、総還元性向の継続のみならず、キャッシュ・フローや資本効率の観点から、株主価値最大化の議論を次期ビジョン・中計に期待するとの声も寄せられた。
- ⑤ 自主的情報開示においては、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が評価された。また、「国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がされていること」も評価された。さらに、「事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会が開催され、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が最も高い評価となった。加えて、「開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」も評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 大阪瓦斯（総合評価点 74.1 点〔昨年度比+3.6 点〕、第4位〔昨年度第8位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第2位（75%）、説明会等（76%）、コーポレート・ガバナンス関連（70%）が同得点第5位、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（78%）、経営陣のIR姿勢等が第13位（72%）となった。昨年度に比べ、3分野（経営陣のIR姿勢等、コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示）の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第2位）および順位の上昇（4ランクアップ）につながった。
- ② 説明会等においては、「決算発表と同日にウェブサイトで決算の理解に有益な資料を開示していること、収益および財務分析に必要な情報（製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等）が、投資家の関心に即して十分に記載されていること、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていること」が評価された。また、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」および「説明会において、経営陣に

より簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していること」も共に評価された。なお、中計目標達成に向けて説明が具体的にになってきた点を評価するとの声が寄せられた。

- ③ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていること」が評価された。
- ④ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価された。また、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」が最も高い評価となった。なお、キャッシュ・フローや資本効率の観点から、株主価値最大化に関する充実した説明が望まれるとの声が寄せられた。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、「国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が評価された。また、「国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がされていること」も評価された。さらに、「事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会が開催され、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が最も高い評価となった。加えて、「開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していること」が評価された。

（参考）部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

J X T G ホールディングス（総合評価点 79.9 点、全体第 1 位）

【電力・ガス部門】

中部電力（総合評価点 78.2 点、全体同得点第 2 位）

東京瓦斯（総合評価点 78.2 点、全体同得点第 2 位）

以 上

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（エネルギー:全体）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5020 JXTGホールディングス	79.9	27.4	1	22.7	1	7.7	11	9.7	4	12.4	3	2
2	9502 中部電力	78.2	26.4	2	21.8	3	8.1	2	10.0	2	11.9	6	6
2	9531 東京瓦斯	78.2	24.7	6	21.9	2	8.1	2	10.6	1	12.9	1	1
4	9532 大阪瓦斯	74.1	23.0	13	21.4	5	7.8	6	9.1	5	12.8	2	8
5	5021 コスモエネルギーホールディングス	73.5	25.2	4	21.7	4	7.6	16	8.2	12	10.8	12	3
6	9503 関西電力	72.8	23.5	11	20.7	7	8.1	2	8.5	11	12.0	5	4
7	9533 東邦瓦斯	72.5	24.8	5	20.4	9	7.8	6	8.6	10	10.9	11	5
8	5019 出光興産	72.2	24.0	7	20.6	8	7.5	17	10.0	2	10.1	17	13
9	9513 電源開発	71.4	23.7	9	20.3	10	7.7	11	8.9	9	10.8	12	6
10	9543 静岡ガス	71.3	25.4	3	20.0	11	7.4	18	8.2	12	10.3	16	9
11	9511 沖縄電力	71.2	23.9	8	21.4	5	7.7	11	9.1	5	9.1	21	11
12	8174 日本瓦斯	70.3	23.1	12	20.0	11	8.2	1	9.0	8	10.0	19	未実施
13	1605 国際石油開発帝石	69.3	22.3	14	18.4	17	7.4	18	9.1	5	12.1	4	16
14	1662 石油資源開発	68.6	23.6	10	19.3	13	7.1	21	7.6	14	11.0	9	17
15	9508 九州電力	67.2	21.9	16	18.7	15	8.0	5	7.4	17	11.2	7	19
16	9507 四国電力	66.2	21.7	17	18.5	16	7.7	11	7.6	14	10.7	15	9
17	9504 中国電力	66.1	21.5	18	18.4	17	7.8	6	7.6	14	10.8	12	15
18	9501 東京電力ホールディングス	64.7	22.1	15	17.2	20	7.4	18	6.8	19	11.2	7	12
19	9509 北海道電力	64.6	20.9	19	19.3	13	7.7	11	6.6	20	10.1	17	20
20	9506 東北電力	62.8	19.1	21	17.9	19	7.8	6	7.0	18	11.0	9	18
21	9505 北陸電力	61.5	20.2	20	17.1	21	7.8	6	6.6	20	9.8	20	21
	評価対象企業評価平均点	70.30	23.25		19.89		7.73		8.39		11.04		

(注) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

2019年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電力・ガス部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 32点)		評価項目4 (配点 28点)		評価項目2 (配点 10点)		評価項目3 (配点 13点)		評価項目4 (配点 17点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9502 中部電力	78.2	26.4	1	21.8	2	8.1	2	10.0	2	11.9	4	4
1	9531 東京瓦斯	78.2	24.7	4	21.9	1	8.1	2	10.6	1	12.9	1	1
3	9532 大阪瓦斯	74.1	23.0	9	21.4	3	7.8	6	9.1	3	12.8	2	6
4	9503 関西電力	72.8	23.5	7	20.7	5	8.1	2	8.5	8	12.0	3	2
5	9533 東邦瓦斯	72.5	24.8	3	20.4	6	7.8	6	8.6	7	10.9	8	3
6	9513 電源開発	71.4	23.7	6	20.3	7	7.7	11	8.9	6	10.8	9	4
7	9543 静岡ガス	71.3	25.4	2	20.0	8	7.4	15	8.2	9	10.3	12	7
8	9511 沖縄電力	71.2	23.9	5	21.4	3	7.7	11	9.1	3	9.1	16	9
9	8174 日本瓦斯	70.3	23.1	8	20.0	8	8.2	1	9.0	5	10.0	14	未実施
10	9508 九州電力	67.2	21.9	11	18.7	11	8.0	5	7.4	12	11.2	5	13
11	9507 四国電力	66.2	21.7	12	18.5	12	7.7	11	7.6	10	10.7	11	7
12	9504 中国電力	66.1	21.5	13	18.4	13	7.8	6	7.6	10	10.8	9	11
13	9501 東京電力ホールディングス	64.7	22.1	10	17.2	15	7.4	15	6.8	14	11.2	5	10
14	9509 北海道電力	64.6	20.9	14	19.3	10	7.7	11	6.6	15	10.1	13	14
15	9506 東北電力	62.8	19.1	16	17.9	14	7.8	6	7.0	13	11.0	7	12
16	9505 北陸電力	61.5	20.2	15	17.1	16	7.8	6	6.6	15	9.8	15	15
	評価対象企業評価平均点	69.57	22.87		19.69		7.82		8.22		10.97		

(注) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目4 (配点 32点)	評価項目4 (配点 28点)	評価項目2 (配点 10点)	評価項目3 (配点 13点)	評価項目4 (配点 17点)	
			評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	順位
1	5020 JXTGホールディングス	79.9	27.4	22.7	7.7	9.7	12.4	1
2	5021 コスモエネルギーズホールディングス	73.5	25.2	21.7	7.6	8.2	10.8	2
3	5019 出光興産	72.2	24.0	20.6	7.5	10.0	10.1	3
4	1605 国際石油開発帝石	69.3	22.3	18.4	7.4	9.1	12.1	5
5	1662 石油資源開発	68.6	23.6	19.3	7.1	7.6	11.0	3
	評価対象企業評価平均点	72.70	24.50	20.54	7.46	8.92	11.28	

2019年度 評価項目および配点(エネルギー)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (32点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場と十分なコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	13
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	8
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	7
②経営分析を行う上で、業界環境の変化等に左右されず、必要かつ重要な情報（会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業を含む）の開示について、過去データとの比較可能性が担保されていますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (28点)	配点
(1)説明資料等における開示	
①決算短信および決算説明資料等	
・決算発表と同日にウェブサイトで決算の理解に有益な資料を開示していますか。収益および財務分析に必要な情報（製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資、部門別あるいは主要子会社別等の実績データ等）は、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が資料に適切に記載されていますか。	8
②説明資料における見通しの開示	
・定量情報として、製品別生産・販売量、主要諸元、主要費用項目、設備投資計画、部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等および定性情報として、政策動向および対応、事業戦略等が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
①短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	3
②説明会において、経営陣により簡潔かつ充実した説明が行われ、十分な質疑応答の時間を確保していますか。	7
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢について、メディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	4
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトで有用な情報提供（月次実績、決算説明会・カンファレンス等の資料、質疑応答の状況等）が滞りなく行われていますか。	6
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (13点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	3
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・配当政策等の株主還元策や資本政策について、具体的かつ納得性の高い目標数値で示されていますか。または、目標数値がない場合でも、客観的かつ合理的に説明されていますか。	6
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (17点)	配点
①国内外の動向を踏まえ、統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	8
②国内外の同業他社との比較が可能な定量的な情報の開示がなされていますか。	4
③事業を理解する上で重要と思われる決算以外の説明会または見学会が開催され、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	3
④開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	2

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	西川 周作	大和証券
	松本 繁季	野村証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	岡三証券

評価実施アナリスト（17名）

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	相馬 正欣	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	角田 成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
荻野 零児	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
狩野 泰宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	松本 繁季	野村証券
坂口 真人	三菱 UFJ 信託銀行	宮田 幸弘	三菱 UFJ 信託銀行
佐久間 聡	QUICK	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
澤田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント	山崎 慎一	岡三証券
新家 法昌	みずほ証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。